

垣ほなす 人は言へども

高麗錦 紐解き開けし 君にあらなくに

(柿本人麻呂之歌集 卷十一・二四〇五)

た関係ではないのに  
噂だけがひとり歩き  
している状況を嘆いて  
います。噂だけでなく  
実際に結ばれたい、と  
求愛した歌とも考えら  
れます。

668年9月13日、

朝鮮半島北部にあった高句麗が唐と新羅の連合軍に滅ぼされました。百濟も663年に制圧されていたため、百濟、高句麗、新羅の三国時代は終わり新羅が朝鮮半島を統一しました。  
『万葉集』にも三国の名が詠み込まれた歌が存在します。百濟、

新羅はそのままです

が、高句麗は「高麗」とあります。別名は「貊(貊)」で、いずれもコマと訓読します。現代では高麗(918~1392年)と区別して「高句麗」と記するのが一般的ですが、埼玉県には高句麗ゆかりの地名「高麗」も残ります。  
この歌では高句麗製

やまと  
万葉がたり

の錦織である「高麗錦」が詠まれており、ほかの歌にもあることから(巻十・二〇九〇、巻十一・二三五六など)、高級な織物の代名詞になっていたことがうかがえます。「高麗錦」は、そうした高級品を身に着けている人物を想起させる役割を担っていたといえます。「高麗剣」が枕詞として用

いられた例もあり(巻二・一九九、巻十二・二九八三)、高句麗製の品は古代日本で珍重されていたとみられます。  
紐を解くとは、男女が共寝することを暗示した表現です。古代日本は一夫多妻制で

別居婚が一般的であったといわれ、男性は意中の女性のもとに夜ごと通うのがならわしでした。ただし、恋愛関係にあることを他人に知らせるような行為はマナー違反であったようです。この歌でも「紐解き開け」

巻十一と巻十二は「古今相聞往来歌」を集めた上下巻と記されています。相聞歌とは互いの消息を聞く歌の意味ですが、実際は恋愛を指しました。  
(県立万葉文化館企画・研究係長・井上さやか)

【訳】垣根のように人々はまわりでうわさするが、高麗錦の紐を解きあけて寝た君でもないのに。

# 大君の境ひたまふと 山守すゑ 守るといふ山に

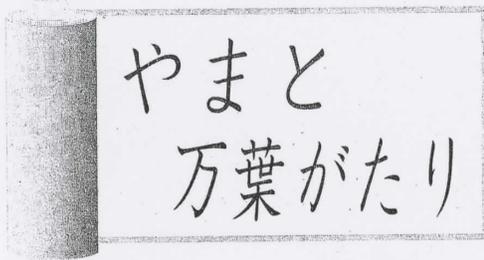
## 入らずは止まじ

笠金村之歌集(巻六・九五〇)

この歌は、題詞によ  
ると、728(神亀5)  
年に聖武天皇が難波宮  
へ行幸した際に作られ  
た4首の歌のうちの一  
首です。左注に「笠朝臣  
金村の歌の中に出でた  
り」とあることから、笠  
金村の歌集より引用し  
た歌であることが知ら  
れます。また、左注には  
続けて「或いは云く、  
車持朝臣千年の作と

いへり」とあり、車持千  
年を作者とする説があ  
ったこともわかりま  
す。金村と千年は共に  
奈良時代前期に活動し  
た歌人です。両者は元  
正天皇の芳野行幸や聖  
武天皇の難波宮行幸な  
どに従い、彼らが行幸  
先で作った歌は『万葉  
集』に複数収められて  
います。

歌の内容は、大君(天



皇)が番人に見張らせ  
ている山を女性に譬  
え、大君の厳しい監視  
の下にある女官の所へ  
行って自らの思いを遂  
げずにはおられない、  
という男性の恋心を歌  
ったものです。この歌  
に続く3首の歌も同様  
に男女の恋を主題とし  
ており、いずれも天皇  
が臨席する宴席で披露  
された座興の歌と理解

することができます。  
ところが、題詞が記  
す神亀5年の難波宮行  
幸は、他の史料では実  
施が確認できません。  
『続日本紀』には聖武天  
皇の行幸が詳しく記録  
されており、難波宮行  
幸が複数回行われたこ  
とも知られますが、神

【訳】大君が境を定められて山の番人を置いて守る  
という山に、私は入らずにいることはできない。

亀年間には神亀元年、  
同2年、同3年の3度  
のみで、神亀5年には  
行幸が行われた記録そ  
のものはありません。  
しかも、この年は聖武  
天皇にとって大変多忙  
な年でした。正月から  
6月までは渤海国から  
任研究員・竹内亮

滞在しており、使節を  
接遇する儀式や宴会な  
どが催されていますし  
た。そして、渤海使が  
帰国した後の9月に  
は、前年に光明子との  
間に誕生していた皇太  
子が幼くして亡くなり  
ます。このような詰ま  
った日程の中で同年内  
に難波宮への行幸が行  
われたとは考えにく  
く、この歌は他の機会  
に作られた歌と見るの  
が妥当かもしれませ  
ん。(県立万葉文化館主